

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	カメラキッズ西葛西園
施設所在地	東京都江戸川区西葛西6-8-4 ニュースカイビル1F

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

英語で世界とつながろう

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)  
保育者や友だちとのあいさつや簡単な言葉のやり取りに、興味や関心を示す姿が見られた。また、絵本や歌、手遊びを通して、音やリズム、言葉の違いを感じ取る力も育ってきているように感じる。  
子どもたちの様子を踏まえ、本テーマ「英語で世界とつながろう」では、あいさつや簡単な英語表現を通して、子どもたちに「世界にはいろいろな人やことばがある」という気づきを促し、多様性への関心や他者と関わろうとする気持ちを育てることを目的とした。

## 2. 活動スケジュール

年12回実施 (4月～3月の間で毎日実施)

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)  
・英語の歌や音楽教材・動物や身近な物の絵カード・英語絵本・音楽再生機器・活動記録用のカメラ、記録用紙 等

子ども一人ひとりの発達や興味・関心に合わせて教材を選定し、視覚・聴覚の両面から自然に英語に親しめるよう工夫した。

## 4. 探究活動の実践

<活動の内容>

パペットやフラッシュカードを用いて英語のあいさつに触れ、英語が人と人をつなぐ言葉であることを感じられるようにした。保育者とのやりとりを通して、人と関わる楽しさを味わえるようにした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)  
子どもたちはパペットやフラッシュカードを通して興味や親しみを示し、音や言葉に反応して心地よさを感じている。  
同じ対象を共有することで他児の存在を意識し始め、少しずつ社会性が育まれている。  
保育者との応答的なやりとりを通して、安心感や信頼感も形成されている。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

パペットやフラッシュカードを用いた活動を通して、子どもたちが「Hello」と声をかけたり、手を振ったりして楽しむ姿を見た。保育者や友だちとのやりとりを通して、英語は単なる学習対象ではなく、人とつながる手段であることを子どもたちが自然に感じていることに気づいた。今後は、多様な表現ややりとりの楽しさをさらに意識した活動を工夫していく必要があると考えた。

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	カメラキッズ西葛西園
施設所在地	東京都江戸川区西葛西6-8-4 ニュースカイビル1F

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

サーキット（協力・友だちとの関わりを促す）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

子どもたちは「どこまで歩けるか」「どうやって進めばよいか」といったことに強い関心をもち、不安定な道に挑戦したり、友だちと一緒に歩いたりすることを楽しんでいる姿が見られた。また、動物の動きをまねしながら夢中になって体を動かす様子も多く見られる。本園では非認知能力の育成を保育方針の柱としており、協調性や挑戦心、自己調整力を大切にしている。専門講師と保育士が連携し、発達段階に応じた安全な身体活動を提供できる環境が整っていることから、主体的に取り組めるサーキット遊びをテーマとして設定した。

## 2. 活動スケジュール

年間12回（4月～12月・月1回の実施）

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

・手作りの道具・マット・ボール・記録用カメラ、記録用紙 等  
子ども一人ひとりの発達に合わせて配置を工夫し、無理なく挑戦できるよう、安全面に十分配慮した環境設定を行った。

## 4. 探究活動の実践

<活動の内容>

物運びやボールパスを行い、協力する場面を設定した。成功体験を共有できる内容を用意し、関わりを促した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

保育者の見守りや声掛けの中で、友だちの動きをまねしたり、同じ遊びを楽しもうとする姿が見られた。子ども同士で顔を見合わせたり声を出したりしながら、関わりを楽しむ様子があった。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちが身近な友だちや保育者と手を取り合いながら関わる様子が見られた。まだ言葉でのやり取りが十分でない年齢でも、互いに笑顔を見せ合ったり、順番を待ったりする中で思いやりや社会的な関わり芽生えを感じた。また、簡単な共同作業を一緒に行ったことで、達成感を表情やしぐさで表す姿に気づき、乳幼児期からの小さな成功体験が自己肯定感や信頼関係の形成につながることを再認識した。今後も、年齢に応じた協力体験を意図的に取り入れていきたい。